

活躍する場所は、 自然豊かな 全国の国立公園



環境省
自然環境局国立公園課
国立公園利用推進室係長

みやもり ゆみこ
宮森 由美子

Profile

平成23年・環境省入省(II種(農業区分)採用)
総合環境政策局環境影響評価課環境
影響審査室係員
窓口業務、環境アセスメント審査補助

転勤

平成24年・関東地方環境事務所日光自然環境事務
所自然保護官
日光国立公園日光地域の国立公園管理
平成26年・近畿地方環境事務所浦富自然保護官
事務所自然保護官
山陰海岸国立公園浦富地域の国立公園
管理

平成30年・自然環境局国立公園課国立公園利用
推進室係長
～現在
国立公園の利用促進、プロモーション



国立公園の 土台を支える仕事

環境省に自然系の技術職で採用された職員は「レンジャー」と呼ばれていて、多岐にわたって自然環境行政に関わる業務を行っています。具体的には国立公園などの保護地域の指定や管理、外来種対策や野生鳥獣の保護、ペット動物の愛護、自然と触れ合うための施設の整備などです。私は元々自然に興味があり、人と自然とのより良い関係をどのように築いていくのかなどの仕組みを考え、つくり出していけるところにレンジャーとして働く魅力を感じ、環境省へ入省、主に全国の国立公園の保護管理等に従事しています。何よりも自然の中で働けるということが私にとっては一番の魅力で、現場において自然や人、その土地の文化との出会いはかけがえのないもので、やりがいも多く楽しい仕事です。

地域の人とつながり、 地域の自然を楽しむ

● 地域との信頼関係を築く

業務の性質上、全国の国立公園などの現場を担当することになることは承知のうえで入省したので、地方への転勤に対しての不安はそこまでありませんでした。どのくらい大変なのかはやってみなければわからないし、その時になったらやるしかない、そんな気持ちで迎えた入省2年目、日光自然

環境事務所への配属が決定。自然保護官として2年間、日光国立公園の管理に従事しました。

我が国の国立公園は、日本を代表する優れた自然の風景地で、その数は全国に34箇所、すべての土地が国有地ということではなく、民有地を含みます。その素晴らしい自然景観だけでなく、昔から人々が生活してきた歴史や文化も含めて価値として認められ、指定されているのが日本の国立公園ならではの特徴です。地域によって状況や課題が全く違っているため、その国立公園に即した適正な管理や利用を推進していかなければなりません。

日光国立公園は歴史も古く、地域の方からの整備の要望や鳥獣被害対策など事務所に期待されることも多くなか、私は主に国立公園の開発行為に対する許認可や、地域の方と公園の協働管理の仕組みづくりなどに携わりました。人が生活している地域も多く含まれるため、開発行為の申請の量も膨大です。申請内容によっては、そのままでは許可できないものもありますが、その内容をあたまから否定するのではなく、国立公園の価値を損ねないように開発のあり方を地域の方と一緒に考えていきます。国立公園とはいえ人の生活と共存するなかで成り立っているものなので、その地域の方に寄り添った対応が求められます。また、住んでいる方が多ければその声も様々です。すべての要望を叶えられるわけではなく長期

的に取り組む問題も多いため、じっくりと時間をかけて地域と信頼関係を築くことの大切さを痛感した赴任期間でした。

● 裁量を得て、やりがいも大きく

2000m級の山々が連なる日光国立公園に続いて配属されたのは、日本海に面する海岸線を中心とした山陰海岸国立公園。海の公園に行けると知った時は心が躍りました。鳥取県にある浦富自然保護官事務所では、許認可のほか、施設整備や環境教育活動等、幅広く業務にあたりました。最初の2年間は一人体制でしたが、その分、やるべき事を自分の目で判断して、自分の裁量で行えるようになり、責任感が増してやりがいも大きくなりました。最初は新しい赴任先で不安を感じましたが、地域の方は優しく何かと気にかけてくれ、自然と仲間が増えていく環境に、とても幸せを感じました。3年目には現地採用のアクティブ・レンジャーが赴任、その採用活動に関わったことも良かったです。

私にとっての転勤とは、「現場と制度をつなぐこと」だと思っています。本省で決め



ちびっ子レンジャー育成中、大人気イベント



カヌーで海をおそうじ、「おそうじカヌー」カヌー事業者や海を愛する人々とのおそうじイベント

た制度や方針を、そのまま四角四面で当てはめるのではなく、その地域にいるからこそ地域のみなさんとよく話してよりよい方法で実行し、それを制度にフィードバックする。その地域を一番よく知っているのは自分だし、自分にしかできないことを自分のやり方で実践できるのは本当に楽しいです。その結果地域も制度も両方良くできるのであればなおさら、やりがいのある仕事だと実感しています。

転勤によって出会った人と別れることは、心引き裂かれる思いですが、それは地域の人とつながり、その地域の自然を楽しむという現場での根本のミッションを達成した証拠でもあると思うので、その寂しさ自体が幸せな経験なのかもしれません。

現場で身に付けた肌感覚を大切に

現在は本省の自然環境局国立公園課で、

国立公園の利用促進やプロモーション業務を担当しています。国立公園の最大の目的は保護と利用を好循環させることですが、1930年代に日本初の国立公園が誕生してから、経済成長の中で開発の波から自然を守るべく、これまで保護に力を入れてきました。しかし近年、日本の国立公園がそこで大事にされてきた自然資源や生活文化を活用して、いかに世界水準のナショナルパークとして地域活性化に資することができるか、そのためにいま国立公園はどうあるべきなのか、改めて考え、取り組もうという局面に入っています。その中で私は、例えばスノーケリングやバックカントリースキー、はたまた農業体験まで、その国立公園ならではの体験をとりまとめ、国内外へ戦略的に発信するなどの利用促進の取組に携わり、現場の業務とは全く違った勉強の日々を過ごしています。ただ、地方を経験しているからこそ、地域の温度感や雰囲気を想像することができますし、あの地域のためになるなら！というモチベーションにつながっているので、現場を離れても自信を持って仕事ができると感じています。

国立公園はその地域によってそれぞれの魅力があり、課題や状況も様々です。今後もしばらくいろいろな地域で、レンジャーとしてさらに経験を積んでいけることは楽しみです。しかしながら将来、ライフイベントを迎えた時にどう行動していくか、その兼ね合いにはまだまだ悩むことも多いので、そこは今後の課題なのかなと思います。

国立公園はその地域によってそれぞれの魅力があり、課題や状況も様々です。今後もしばらくいろいろな地域で、レンジャーとしてさらに経験を積んでいけることは楽しみです。しかしながら将来、ライフイベントを迎えた時にどう行動していくか、その兼ね合いにはまだまだ悩むことも多いので、そこは今後の課題なのかなと思います。

1日のタイムスケジュール例(転勤時)

- 7:00 起床、朝食、弁当作り
- 8:00 自家用車で出勤
- 8:30 業務開始
現場での打合せや調査
- 12:00 昼食
- 13:00 事務作業や打合せ
(急なお客さんがたくさん来ます)
- 19:00 業務終了
- 21:30 趣味
(地域の自然に応じて趣味は変動します)
- 23:30 就寝

女性職員へのメッセージ

自然豊かな国立公園を中心とした全国転勤は、夢が詰まったミステリーツアーのようです。予想外の出来事に驚いたり、新たな環境での緊張感でくたびれたりしますが、新しい環境を楽しみましょう！

人事課からのメッセージ

Q 転勤に関して、組織としてどのような配慮・工夫を行っていますか。

A 毎年度、全職員を対象に人事異動等に関する意向を聴取し、特に転勤に関しては可能な限り本人の意向を考慮することに努めています。
また、転勤の打診についても、本人に対して早期に行い、職員の負担軽減を図っています。

Q 転勤の意義や必要性についてどのように考えていますか。

A 霞が関での勤務では実感しづらい現場意識の醸成や、地域還元、地域へ貢献する意識を育むことができる点だと考えています。

Q 運用上の課題はありますか。

A 地方に配置する職員を幅広い年次から輩出する必要がありますが、中間層の転勤はライフステージの都合上難しくなる傾向があり、継続的な人員配置に苦慮しています。

